



議会だより

しせん

第75号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3111

編集 議会広報編集委員会

印刷 株式会社 美新印刷

伊仙町ほーらい祭



第34回伊仙町ほーらい祭り 面縄港特設会場

～ET-KINGスベシヤルライブ～ (令和4年11月3日)

令和4年第3回定例会（9月6日～14日） 議案・審議・議決結果

議案番号	件名	議員名(議席番号順)													議決結果	
		井上和代	久保量	大河善市	杉山肇	牧本和英	佐田元	清平二	岡林剛也	上木千恵造	永田誠	福留達也	樺山一	美島盛秀		前徹志
同6	伊仙町農業委員会委員の任命の同意	投票による表決(投票総数13票 賛成11票 反対1票 無効1票)													-	同意
同7	教育委員の選任	投票による表決(投票総数13票 賛成8票 反対2票 無効3票)													-	同意
議39	伊仙町肉用牛特別導入事業基金条例の一部を改正する条例	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	原案可決	
議40	伊仙町水道水源保護に関する条例の制定	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	-	原案可決
議41	令和3年度伊仙町上水道事業会計の利益処分	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	原案可決	
議42	令和4年度伊仙町一般会計補正予算(第4号)	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	-	原案可決
議43	令和4年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	原案可決	
議44	令和4年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第1号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	原案可決	
議45	令和4年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第1号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	原案可決	
追加同8	伊仙町監査委員の選任	投票による表決(投票総数13票 賛成9票 反対2票 無効2票)													-	同意
認1	令和3年度伊仙町一般会計歳入歳出決算	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	認定	
認2	令和3年度伊仙町国民健康保険特別会計歳入歳出決算	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	認定	
認3	令和3年度伊仙町介護保険特別会計歳入歳出決算	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	認定	
認4	令和3年度伊仙町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	認定	
認5	令和3年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	-	認定
認6	令和3年度伊仙町上水道事業会計歳入歳出決算	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	認定	

【表の見方】 議：議案 同：同意 認：認定 ◎：全会一致 ○：賛成 ×：反対 欠：欠席 -：表決権なし
 ※前徹志議員は議長職のため特別多数議決以外の議案については、表決（賛成、反対の意思表示）権はありません。

令和4年 第3回定例会

一般質問



美島 盛秀 議員

新型コロナウイルス感染症
対策について

問 第7波の感染状況と対策を問う。

答 感染力が非常に強く、患者数も多いが、重症化する割合は非常に少ない。

(総務課長)

島内の感染者数について、4月が83名、5月が888名、6月が651名、7月が1154名、8月が2298名で、8月に

は行動制限等がないということ、帰省者が多く、感染が広まったと考えている。8月末から9月にかけては減少傾向にあり、入院、療養者数も減ってきている。

教育行政について

問 教育問題は大きな変革期が来ていると考えるが、校則の是正、道徳教育への取組みについて問う。

(教育長)

答 校則については、プライバシーの侵害やジェンダー等の合理的配慮の下の各学校のブックと言われる校則については、是正するように国からも示されているので、委員会としても注視し、是正が必要な校則については指導していきたい。また、道徳教育につ

いては、小学校・中学校それぞれ教科化されており、35時間の授業を実施しながら道徳心を育てていくというところが、以前よりも教科化されたことにより各学校に浸透していると考えている。

問 町の教育指針に沿って、小中学校の連携は取られているか問う。

(教育長)

答 学校運営については学長の責任の下で進められているが、生徒指導の面など学校だけで解決できない問題については、行政や関係団体と連携を取る必要があると考えている。

問 闘牛文化と教育環境への関係は、議論を深めていくことが必要と考えるが、認識を問う。

(町長)

答 闘牛文化には光と影の部分があるのでいかに影の部分小さくしていけ

るか、闘牛協会、関係者、旅行会社等とも議論を進めていきたい。また、伊仙町においても、闘牛に関する条例等を議員の方々と一緒に作り上げていくことが、大変有効であると考えている。

(教育長)

闘牛文化は先人たちが残してくれた生きる教材であり、負の部分も指摘されるが克服しながら、先人たちが苦しくても明日への希望を持って困難を乗り越えてきた。あと少しの頑張りを終わりの美学として伝えていきたい。



闘牛のようす



喜念小学校

問 小規模校について、老朽化が進んでおり早急な建て替えが必要であると考え、認識を問う。

(教委総務課長)

答 町の公共施設等総合管理計画により、学校施設は耐震診断を実施し、診断結果は基準を満たしているが、効率的な維持管理、修繕及び改修を計画的に進めていく必要があると考えている。



福留 達也 議員

役場新庁舎建築工事について

問 現時点での進捗状況と完成時期について問う。

(総務課長)

答 8月末の時点で17%の進捗状況となつて

おり、当初の工期では完成できないと判断し、工事監理、請負業者に完成時期について精査してもらつており、今年10月頃には全体の工程が見えてくる予定である。併せて、今回遅延に至つたコロナでの人夫不足についても協議しており、確認でき次第議会で報告したいと考えている。また、工期が年度を跨いだ場合でも、当事業においては、継

続予算であるため、交付金等に支障は来たさないことを申し添える。

問 今後、建築資材等の高騰による建築費用の増加があらうのか問う。

(総務課長)

答 工事契約条項において、発注者または受注者は工期内で請負契約提携、その日から12月を経過した後に、日本国内における資金水準の変動により請負代金額が不相当となつたと認めるときは、相手方に対して請負代金額の変更を請求することができるとなつており、これは、当初の契約から12月を超える契約工期のことを指し、本工事においても12月を超える契約となつており、資材高騰の影響により単価の変動がある場合はこれを適用せざるを得ないため、建築費用が上下することはあり得ると考えている。



建築工事がすすむ役場新庁舎

面縄港の施設整備について

問 当該港を整備するにあたり、町としてどのような将来像を描いているのか問う。

(建設課長)

答 面縄港の施設整備について、現段階では事業化にはなつておらず要

望活動を行っている段階であるが、将来像として1つ目に、面縄港を流通拠点とし、アクセスの有利性、面縄港背後地を利用した安全性、利便性を整備する。2つ目に、食料自給率の向上を目標とし、食料や物資を安全に保管できる倉庫を整備し、災害や気象状況の変更に迅速に対応できる施設

を整備する。3つ目に、物流機能整備のため、大型船舶でも寄港可能な水深で公共ふ頭を整備する。4つ目に、流通の港整備に伴い、港湾関連産業立地の環境づくりを行い、本港の周辺地域の産業立地を核とする。5つ目に、世界自然遺産登録の島として、奄美群島リゾート構想のネットワークの拠点とするための整備を行う。6つ目に、住民に親しまれる湾港環境と伊仙町の海の玄関港としての良好な環境を創出する。これらことが、面縄港の施設整備に当たり描いている将来像である。



面縄港



井上 和代 議員

ごみ減量化対策について

問 生ごみ処理以外のごみ減量化対策についてどのような取り組みをしているのか問う。

(きゅらまち観光課長)

答 現在、資源化されている品目の分別に取り組んでいるところである。

最近では、ごみやリサイクルに対するひとりひとりの意識は高まっているが、資源物専用袋に資源物以外の混入もあり、リサイクルに回せないという事例も多く、今後は分別の周知徹底を図っていき、リサイクル率の向上に努めていく。
また、現在取り組んでいる品目以外にでも資源として

活用できるものはないか、広域連合と協議を進めて、資源として活用できることで、ごみ減量化を図ってきたい。



日置市の家庭生ごみ回収容器

集落活性化について

問 各集落の公民館等は老朽化が進んでいるが、町としての対策、また、所轄する担当各課での管理状況把握はどのようにされているのか問う。

(地域福祉課長)

答 地域福祉課で管理している施設の軽微な修繕については、課のほうで対

応を行い修繕費等も課で負担している。大規模改修は総務課で予算を組んで行っている。

(総務課長)

2か月に1回区長会を開催しているが、その際に、各集落の区長より公民館等の状況を聞き取り、修繕箇所があればその担当課でそれを把握し対応を行う。大規模改修に至っては、事業費を用いて改修を進めている。



改修工事が行われた下検福生活館

幼児教育の方向性について

問 町として幼児教育の方向性をどのように考えているのか問う。

(教育長)

答 幼児期から児童期に向けて、連続性を共通認識として持ちながら、生徒指導の問題、学力の問題、情緒教育などについて幼少連携が必要。また、幼児教育の中で人と人の交流を大切にし、成長していく中で、交流を通して優しくされることが人を許しあえる心を豊かにすることができる。

伊仙町では、子どもたちが人と関わることを大事にしている幼児教育を、地域の中で子どもたちが触れ合っている活動、これらをこれからも大切にしたい。



伊仙幼稚園

令和4年第3回伊仙町議会定例会において



町議会HP

令和3年度伊仙町一般会計予算他5特別会計予算審査特別委員会 (一部抜粋※委員長報告につきましては、町ホームページ「会議録」をご確認下さい。)

去る、9月7日の本会議において、当初予算審査特別委員会が設置され、「令和3年度伊仙町一般会計他5特別会計歳入歳出決算審査特別委員会」を付託し、9月9日から13日までの5日間審議いたしました。そのなかで、9月9日に、委員並びに議長を含む14名と事務局職員2名、執行部からは大久保町長が同行し、現地調査を行いましたので主な項目について報告いたします。

●1件目に、伊仙町堆肥センター運営状況について、本年4月より新たな指定管理者のもと運営されている状況ではあるが順調に堆肥の製造、または農家へ供給されているようであった。現在きゅらまち観光課で進めている生ゴミの堆肥化も今後同施設を活用して行えないか。との質疑をし、説明では、前事業者により搬入され、積み置き状態となったままの物品処理に苦慮されているとのことであり、処理を終えるのにはまだまだ時間を要するとの説明であったが、この件につきましては前事業者及び現事業者と経済課の三者協議を行い、適切な対策を講じるよう要望した。



堆肥センター

●次に、有機物供給センターについて、現業務委託事業者が受託された時点において、ほとんどの機械が使用不能状態であり、現在かくはんブローアのみを使用し、活性汚泥化を図り製造された液肥を散布しており、農家からの評判も良く、年々散布要望も増加傾向にあるとの説明であった。しかし、同施設は老朽化が著しく新設には多額の費用が見込まれることから、今後いかに延命化しながら使用していくかが課題とのことであった。昨今のSDGsや化学肥料の急激な高騰を鑑みると、今後の本町の農業振興発展において非常に重要な施設であり、早急に今後の方策を検討する必要があると思われる。



有機物供給センター

●次に、農業支援センター会議室において、学校給食の試食並びに教育長、教育委員会総務課長、給食センター所長との意見交換会を行った。当日の献立は、十五夜ということで「セルフ豚みそおにぎり」と「沢煮椀」でありおいしく頂いた。給食センターの課題として、施設老朽化に伴い機械類の維持管理や修繕、調理員の不足により人員確保に苦慮されているとのことであった。また、アレルギー対策に関しては学校、給食センター栄養士、保護者との協議を重ね、9月中旬頃より、ひと月に数日の弁当対応を除き、しっかりとした対応が取れるとの説明であった。令和4年度から給食費無償化となったことに関し、早急にアンケート調査を実施し、効果検証を行うよう要望した。



学校給食

●次に、伊仙町歴史民俗資料館において、令和2年度より明許緑越となっている「映像産業を軸とした観光・産業振興と地域ブランディング事業」について説明を受けた。当該事業は、歴史民俗資料館が所蔵する資料のデジタル化、町内にある文化財や海底遺跡等の映像制作、歴史民俗資料館ホームページを作成しデータベースで閲覧が可能となることで、町外・島外からでも映像を通じて伊仙町の歴史を学ぶことができるとの説明であった。実際に見せて頂いた映像は、私たち委員も大変勉強となるものであり、現在はYOUTUBEの伊仙チャンネルでしか閲覧できないとのことであったが、ぜひ町ホームページからも閲覧できるように対応していただきたい。また、アクセスカウンターを付けて視聴数を把握することにより、ニーズに沿った住民サービスの提供が可能になることから、併せて対応を要望した。



歴史民俗資料館

あなたの声が地域を変える

町民の声

インタビュアー 永田 誠議員

祝！喜念ブルースバレー部県大会出場！！

今回は、男女混合の部で郡大会を優勝し県大会出場を決めた、喜念ブルースバレー部にお話を伺って参りました。



●部の紹介

喜念ブルースは部員数小学校1年生から6年生まで計11名(全校児童20名)の小規模校ながらOBも加わり6年生4名を中心に厳しい練習もありますが時には楽しく笑いありのアットホームな雰囲気のあるチームです。

西日本大会出場という大きな夢を掴みとったもののコロナの影響で中止…。悔しい気持ちをバネに常に上を目指して日々の練習に励んでいます。

身体の大きさは負けても繋ぐぞ！！勝つぞ！！という粘り強く最後まで諦めない気持ちで頑張っています。

Q1 練習での工夫していることや苦勞等がありますか？

A

特に、サーブ・レシーブを重点に練習しています。
また、コロナ禍で練習試合等に制限があったので、中高生のOBに参加してもらい試合形式の練習をしています。



Q2 町からの補助金についてどのように思われますか？

A

一番にのしかかってくる大きな問題が大会出場にかかる交通費や宿泊費等の大きな負担なのですが、補助金を出して頂ける事で負担が軽くなるのは大変有難い事だと思います。

Q3 行政に対し要望はありますか？

A

- ①県大会に関してはフェリーでの往復は時間や日数等がかかり飛行機での往復移動が好ましいと思うのですが…補助金は船での交通費しかでないとのこと。フェリー、飛行機どちらにせよ引率、サポートする保護者の負担も大きいので(小学生は低学年もいるので保護者の引率、サポートは必須)補助金の増額の検討をお願いしたいです。
頑張る、頑張ってる子どもたちの為に手厚い対応を検討して頂けたらと思います。
- ②島外への大会出場に伴う宿泊先のピックアップ等有難いですがもっと中身を充実させてほしい。例えば、送迎可能なのか、マイクロバスはついているのか、空港や港から宿泊先までの距離・時間等
クーラーボックス・キーパー等の貸し出しは可能かなど。
離島だからお金がかかるからとの理由で諦めさせたくありません。未来ある子供達の挑戦は私達の夢でもあり希望でもあります。どうか御検討のほどよろしくお願い致します。

Q4

最後に、県大会に向けての目標・意気込みを聞かせてください。

A

作岡キャプテン：

前回の県大会では3位だったので、次は優勝を目指してがんばります！皆さまの応援よろしくお祈りします！

永田議員：

生き活きと元気いっばいに活動されていました。その中でも真剣な表情が印象的でした。

令和4年12月18日から霧島市横川町体育館で開催される「令和4年度第50回鹿児島県スポーツ少年団競技別交歓大会バレーボール競技（混合）」に出場される喜念ブルースバレーボール部の活躍をお祈りいたします。



議会の動き

令和4年第3回伊仙町議会定例会における諸般の報告（議長の動静）

動静期間：令和4年第2回定例会（6月9日）以降の分

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

月	日	行事名	場所	月	日	行事名	場所
令和4年6月	9日	町制施行60周年記念事業運営委員会	農業支援センター	令和4年8月	8日	"未来技術社会実装事業に関する基本協定書調印式 DISCOVER TOKUNOSHIMA"	東京
令和4年7月	15日	令和4年第4回臨時会	議場		17日	令和4年度第1回徳之島地域公共交通活性化協議会	天城町
	19日	徳之島教育コンソーシアムの設立に係る説明会	徳之島高校		18日	議会全員協議会	委員会室
	21日	徳之島三カ町議会議員連絡協議会役員会	徳之島町		22日	面縄港施設整備に係る中央要望活動	東京
令和4年8月	26日	奄美群島さとうきび価格対策協議会総会	奄美	令和4年9月	2日	議会運営委員会	委員会室
	3日	夏植出発式	役場		6日	令和4年第3回定例会開会	議場

編集後記

町民の皆さま、毎日のお仕事お疲れ様です。月日の流れは早いもので今年も師走を迎え、令和4年が終わろうとしています。私が広報編集委員となり、初めての編集後記の掲載となります。

令和4年2月に議会構成が変わり新たなスタートを切りました。本年も議会活動に対する叱咤激励、ご理解とご協力を頂きましたことに対し改めて感謝申し上げます。

先日空港である親子に遭遇し、高額医療について考えさせられる機会がありました。持病を持っている乳幼児の為に毎月一回鹿児島本土の病院へ親子で通わなければならないとのことでありました。費用もかかり、仕事も休まなければならないことを考えると、非常に心打たれるものがありました。

伊仙町は長寿・子宝の町をスローガンに掲げている中でお年寄りから子どもたちが安心して暮らしやすい生活が送れるよう考えながら今後の議会活動に取り組んで参りたいと思います。

さて今年一年を振り返ってみますと、まだまだ油断は出来ませんが、コロナ自粛生活からの3年ぶりのほろほろの祭開催！伊仙町に元気が戻ってきました。手を引ながら道を歩く笑顔あふれる親子の後ろ姿を目にし、心温かい思いが徐々に蘇りました。その明るい笑顔が来年町政施行60周年を照らす道しるべにも思え、皆さまのご理解また日頃よりご尽力いただいている役員や関係者の皆さまに改めて感謝致す所存であります。来年も伊仙町議会に対しましてたくさんのご指導鞭撻よろしくお祈り申し上げます。

詩人の相田みつをさんは、正月の正という字は、「一に止まる」と説いております。原点に戻り、気持ちを新たにスタートできるお正月を皆さまがご健康とご多幸に満ち溢れお迎えできますことを心からお祈り申し上げます。

(文責 永田 誠)

議会広報編集委員会



- 委員長 牧本 和英
- 副委員長 杉山 肇
- 委員 美島 盛秀
- 委員 永田 誠
- 委員 久保 量